

# 「指導と評価の一体化」による 学習評価の充実・推進事業

## リーディング・スクールの実践概要・成果と課題



- |        |                        |
|--------|------------------------|
| 【岐阜地区】 | 岐阜市立加納小学校<br>岐阜市立加納中学校 |
| 【西濃地区】 | 関ヶ原町立関ヶ原小学校            |
| 【美濃地区】 | 美濃市立美濃中学校              |
| 【東濃地区】 | 中津川市立南小学校              |
| 【飛騨地区】 | 高山市立日枝中学校              |



# 本事業の趣旨



- 本事業は令和5年度から令和7年度までの3年間にわたり、学習指導要領の方向性に基づいた「指導と評価の一体化」の実現に向けた学習評価の充実を一層推進するために実施してきました。
- 本事業では、教師の指導改善・児童生徒の学習改善につながる学習評価の充実を目的とし、これを担う「リーディング・スクール」の具体的な実践を通して、「指導と評価の一体化」を踏まえた資質・能力を育む指導の在り方や、単元を見通した「指導と評価」の計画立案、根拠に基づき、妥当性・信頼性のある学習評価の在り方等について実践・検証し、児童生徒に資質・能力を育むための指導に実効性のある学習評価の在り方について究明してきました。

## ◆ より詳しく知る

- 本事業の詳しい内容や資料は、右の2次元コードまたは下記URL(リンク)から御覧いただけます。

<https://www.pref.gifu.lg.jp/page/470727.html>



### ◆概要…訪問日6月27日、28日

#### ・公開教科【全学級公開】

<学びの調整サイクルが確立する単元・題材構想の工夫>

○「問いや願い」「学習計画や活動の見通し」が引き出され、どの子にも必然性や挑戦意欲の湧く「魅力」が高まる構想をする。

○子どもが自ら解決方法を選びとっていけるような、「自己選択」の場がある構想をする。

○学びの深まりを自覚したり学習改善を図ろうとしたりする意識が、単元・題材全体を通して連続し、発展していくような構想をする。

<学びの調整サイクルを支える指導・援助の工夫>

○各教科・領域の特性や単位時間の役割に応じて、児童の学びの調整サイクル「自ら見通す、自ら実行する、自ら振り返る」姿を支える指導・援助の工夫を図る。

#### 【実践例】第6学年体育科「テニピン」

視点	構想の工夫
魅力	「テニピン」の教材化 →ボールと触れる回数多い →ボール操作が容易 →自分の動きで勝敗が決まる（自分事）
自己選択	単元前段：動きを身に付ける時間 単元後段：個人課題に応じて、攻め方を選択する時間
連続・発展性	毎時間のACP活動 →前時の個人課題と結び付ける



#### ○成果

- ・子どもの主体性を大切にした単元・題材構想の工夫を図ったことで、学習が自分自身のものとなり、育成したい資質・能力を十分に育むことができた。
- ・自分の目標や解決の見通しを明確にしたり、追究方法を選択・改善したり、学びの深まりを自覚できるように教師が指導・援助したりすることで、子どもが自己の学びを調整し、より深い学びを実現することができた。

#### ●課題

- ・学習対象に対するまとめと、自己の学びについての振り返りの在り方について、単元や単位時間の目標に応じて考えていく必要がある。また、振り返りをする場面（毎時間振り返りをするor単元の終末に総括的に行う）についても、発達段階や単元の学習内容を踏まえて精選していきたい。

### ◆概要…訪問日11月9日

#### ・公開教科【 体育 】

<学びの調整サイクルが確立する単元・題材構想の工夫>

○単元構想の3つの視点（魅力、自己選択、連続性・発展性）に基づく指導と評価の計画を立てることにより、「子どもが自分の動きを捉え直し続けながら運動に取り組む姿（体育科における学びを調整して深める姿）」を具現化できるようにする。

<学びの調整サイクルを支える指導・援助の工夫>

○自ら見通す、自ら実行する、自ら振り返る姿を支える指導・援助により、どの子どもも本時の評価規準の姿に至ることができるようにする。

時間	目標	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	3on2のゲームの仕方を知り、試しのゲームをすることができる。	・知① (行動観察・記述)		・態① (行動観察・記述)
2	チームで得点をとるためのボール操作の仕方について理解し、ゲームをすることができる。 ・近いくる味方へのパス ・相手にとられない位置でのドリブル		・思② (行動観察・記述)	○態① (行動観察・記述)
3	・相手にとられない位置でのドリブル ・パスを受けてのシュート	○知① (行動観察)		・態② (行動観察・記述)
4	3on2で、チームで得点をとるためのボールを持たない時の動き方について理解しゲームをすることができる。	・知② (行動観察)	○思② (行動観察・記述)	
5	・ボール保持者とゴールの間に体を入れた守備 ・ボール保持者と自分の間に守備者が入らない位置への移動 ・得点しやすい位置への移動	○知③ (行動観察)		・態② (行動観察・記述)
6	前時までの学習を基に、適切な状況判断をしながらチームでの作戦から発揮したい動きを選択し、得点を目指すゲームをすることができる。		・思① (行動観察・記述)	○態② (行動観察・記述)
7			・思① (行動観察・記述)	
8	自己や相手チームの特徴に応じた作戦を選んで、クラス内対抗ゲームをすることができる。	○知② (行動観察)	○思① (学習カード・振り返り)	



「第7時 授業中段の様子」  
仲間や教師からの即時評価の場面。児童は、次ゲームで生かしたい動きを決め、学習改善を図ろうとしている。

ゴール型 バスケットボール「指導と評価の計画」

### ○成果

- ・単元構想の3つの視点に基づいて指導と評価の計画を立てたことで、「子どもが学びたいこと」と、「教師が指導すること」を一致させることができた。
- ・サイドコーチへの指導や児童への声かけ等、教師の指導性を発揮することで、学習状況（C）の子どもが「自ら見通す、自ら実行する、自ら振り返る」ことができるようにした。
- ・単元における学習記録を1つの共有ノートに記録することで、児童が自己課題を見出す時の根拠とすることができた。

### ●課題

- ・学習状況（C）の子どもが（B）となるためには、教師が個で関わる必要が出てくる。子どもたち同士で高め合っていけるような集団づくりと、教科の見方・考え方を自ら働かせていけるように今後も継続して指導していく必要がある。

### ◆概要…訪問日5月23日

#### ・公開教科【数学】「多項式 文字式を使って説明しよう」

<指導計画の工夫と「指導と評価の一体化」>

○「学習シート」を活用することで、単元の終末に目指す姿やそのために身に付ける力を共有したり、生徒が単元の見通しをもったりできるようにする。

<p>3年生 1章「多項式 文字式を使って説明しよう」 単元を貫く課題 数や図形の性質を文字式を使って説明するときに、大切なことは何だろう。</p>	<p>単元の学習後の「ゴール」 ①単元を貫く課題に対する自分の考えをまとめることができる。 ②学んだことを、物教科や総合的な学習、これからの生活に生かす見通しをもつことができる。</p>
<p>単元の「ねらい」 【知識及び技能】 □多項式と多項式の乗法・除法の計算をする技能。 □公式を使って、多項式と多項式の乗法・除法の計算をする技能。 □因数分解の意味と方法の理解。 □公式を使って、因数分解をする技能。 【思考力、判断力、表現力等】 □これまでに学習した展開の方法と関連付けて、展開・乗法の関係を理解する力。 □これまでに学習した因数分解の方法と関連付けて、乗法・除法の関係を理解する力。 □数や図形を使って、数や図形の性質を文字式を使って説明する力。 □文字を用いた数や図形の関係を捉え、説明する力。 【学びに向かう力、人間性等】 □これまでに学んだことを活用して、計算の方法や公式の使い方を振り返り考えられている。 □問題解決の過程を、「観察」「解釈」「統合」「発展」の視点で振り返っている。</p>	<p>終末 1時間 【はじめに】 文字式を使って説明するときには展開したものを元の式でかきかえよう。今まで習ったことからも思い出しながら計算していくことが大切だと思った。因数分解の時は元の式はどんな式だったか思い出しながら計算する。展開する時は逆で計算していくことが大切だと思った。因数分解が数学や文字式からつながることやその逆が二乗になっているかを見つけていくことが大切だと思った。説明するときは展開の計算の時に自分が説明したいことできるように工夫していかないといいと思った。 【おわりに】 展開と因数分解の両方を活用していきけるのはいいと思うけど、逆算をいかに活用していきけるかという考え方が重要だと思った。逆算の考え方をこの単元の生活に活かしていきたい。例えば身の周りの生活で使っているスマホのアプリなども活用していきけるようにしたい。展開と因数分解の両方を活用していきけるようにしたい。展開と因数分解の両方を活用していきけるようにしたい。</p>
<p>導入 1時間 【単元を貫く課題に対する考え】 何を文字で表すのが大切だと思った。今までで習った展開・乗法・除法の関係を思い出して、文字で表すのが大切だと思った。今までで習った展開・乗法・除法の関係を思い出して、文字で表すのが大切だと思った。</p>	<p>1節 多項式の計算 7時間 【学んだこと・考えたことメモ】 <math>(x+a)(x+b) = x^2 + (a+b)x + ab</math> <math>(x+a)^2 = x^2 + 2ax + a^2</math> <math>(x-a)^2 = x^2 - 2ax + a^2</math> <math>(x+a)(x-a) = x^2 - a^2</math> 【振り返り】 公式をかきかえれば展開できるけど、公式に~を代入しただけだと簡単には計算できないことがわかった。共通因数を見つけて、式によって係数を変えないといけないものもあるから符号の変化にも気をつけて計算していくことが大切だわかった。</p>
<p>2節 因数分解 6時間 【学んだこと・考えたことメモ】 展開した式を元の式に戻す共通因数を見つける関心は重要。 【振り返り】 元の式をかきかえれば展開できるけど、公式に~を代入しただけだと簡単には計算できないことがわかった。共通因数を見つけて、式によって係数を変えないといけないものもあるから符号の変化にも気をつけて計算していくことが大切だわかった。</p>	<p>3節 式の計算の利用 4時間 【学んだこと・考えたことメモ】 【振り返り】 展開する式では計算の最後で何を説明したいかによって式を裏切ることが大切だわかった。計算の過程で元の式をかきかえれば展開できることが大切だわかった。</p>

<自らの学びを言語化し、自己調整力を高める指導の工夫>

○個人追究は、時間による区切り方はせず、個で追究する」「仲間と協働して考える」等生徒が学び方を選択できるようにする。

○授業後半に、自己課題を設定して取り組む活動を位置付け、生徒が学びの定着具合に応じて自己調整できるようにする。



### ○成果

- ・単元の導入において、単元末に目指す姿や本単元で身に付けたい資質・能力を子どもに分かる形で共有したことは、子どもが単元の見通しをもって学んだり、効率よく資質・能力を育成したりするのに有効であった。
- ・「個別最適な学び」「協働的学び」が一体的に充実した学習活動により、多くの生徒が学習状況に合わせた学び方を選択することができた。

### ●課題

- ・本時のねらいに対し、全員が達成することができるようにするための指導と見届けを今後も工夫していく必要がある。生徒の学習状況に応じた多様な指導・援助の想定をしたい。
- ・本時や単元全体を通して働かせるべき教科の見方・考え方を教師が明確にもつ必要がある。その上で、生徒の学習状況に合わせたタイムリーな指導を行い、本時育みたい資質・能力を十分に育成できるようにしたい。

### ◆概要…訪問日10月3日

#### ・公開教科【全教科公開】

<指導計画の工夫と「指導と評価の一体化」>

○単元（題材）で育成を目指す資質・能力を明確にし、生徒の実態を考慮して指導の個別化を図ったり、教科の本質に迫る学び方等を学習サイクルに織り交ぜたりしながら、単元（題材）全体をデザインし、単元（題材）指導計画を作成する。

<自らの学びを言語化し、自己調整力を高める指導の工夫>

○課題に対して、「本時何ができたのか」「次時にどうつなげたいか」といった、自らの学びを精緻化するための生徒の思考の言語化を位置付けた振り返り活動を行う。



<生徒の振り返り>

$y=ax^2$ のグラフは、比例のグラフと共通して、原点を通るグラフであり、比例や1次関数とは違い、曲線のグラフになることが分かりました。グラフはy軸について対称で、式でもxの絶対値が等しければ、 $x^2$ の値が等しくなるので、表やグラフも対称になることが分かりました。このように、表や式とグラフの関連性を考えることができました。

比例や反比例と比べたり、表、式、グラフの関連性を考えたりしたので、これからの利用や、他の単元でも活用していきたい。

### ○成果

- ・単元（題材）の学習終了後の「生み出したい生徒の姿」から単元（題材）を構想することで、一単位時間や学習のまとめりごとに何を学ぶか、そのためにどう取り組むかが明らかになり、問いや課題、学習の視点を明確にすることができた。
- ・教科の特性や見方・考え方に応じた振り返りの視点を示すことで、学びの深まりを実感し、次時への意欲を喚起したり、見通しがもてるようにしたりすることができた。

### ●課題

- ・今後も「主体的に学習に取り組む態度」の評価の妥当性や信頼性を確保するために、学年・教科間でどのような状態をBとするか等、具体的な生徒の姿で話し合い、校内で継続して共通理解を図る必要がある。
- ・学習者である自分の学習状況を見つめ直す振り返りとなるよう、在り方を検討していく。

### ◆概要…訪問日5月21日

#### ・公開教科【算数】

#### ICTを活用した「主体的に学習に取り組む態度」

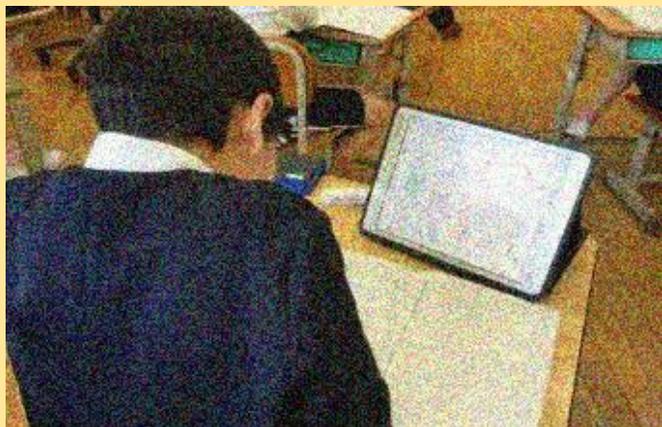
#### の妥当性・信頼性のある評価の在り方

##### <授業>

- ・棒グラフから気付いたことを録音し、終末においてその録音を聞き直してから、振り返りを再度録音する。それを基にして「記録に残す評価」を行う。

##### <検証会>

- ・「主体的に学習に取り組む態度」の評価を全職員で行い、評価と指導の在り方について協議した。



### ○成果

- ・考えを「録音」させ評価することは、書くことに抵抗がある子どもや低学年の子どもにとっては有効な手立てである。
- ・単元指導計画が作成されていることにより、検証会では「主体的に学習に取り組む態度」について、評価の妥当性・信頼性を検証でき、「評価C」にしなかったための指導の在り方を考えることができた。

### ●課題

- ・「主体的に学習に取り組む態度」について、評価規準を作成していく。
- ・個の「指導に生かす評価」の場を効果的に活用し、その後の「記録に残す評価」がどのように変容したのか記録として残していく。その際、「指導に生かす評価」で「C」がついた子どもに行った具体的な指導も紹介できるようにする。

### ◆概要…訪問日11月19日

#### ・公開教科【算数】

#### ICTを活用した「主体的に学習に取り組む態度」

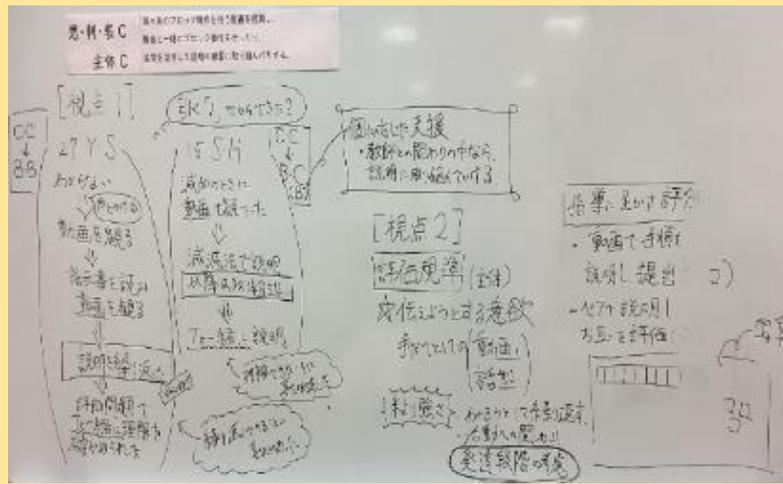
#### の妥当性・信頼性のある評価の在り方

##### <授業>

- ・「主体的に学習に取り組む態度」と「思考・判断・表現」の両面から児童の実態を捉え、4つのカテゴリーに分類し、それぞれに合わせた指導・援助を考え、指導に生かす。

##### <検証会>

- ・検証会において、4つのカテゴリーごとに、本時の手立てが有効であったか、抽出児の姿を交流することで検証した。



### ○成果

- ・算数の評価においては、「主体的に学習に取り組む態度」と「思考・判断・表現」には密接なつながりがあることが検証された。
- ・4つのカテゴリーで分類して、評価規準を設定し、手立てを考えておくことは、即時的な評価と指導・援助につながり、「主体的に学習に取り組む態度」「思考・判断・表現」の両面を伸ばしていくことができた。

### ●課題

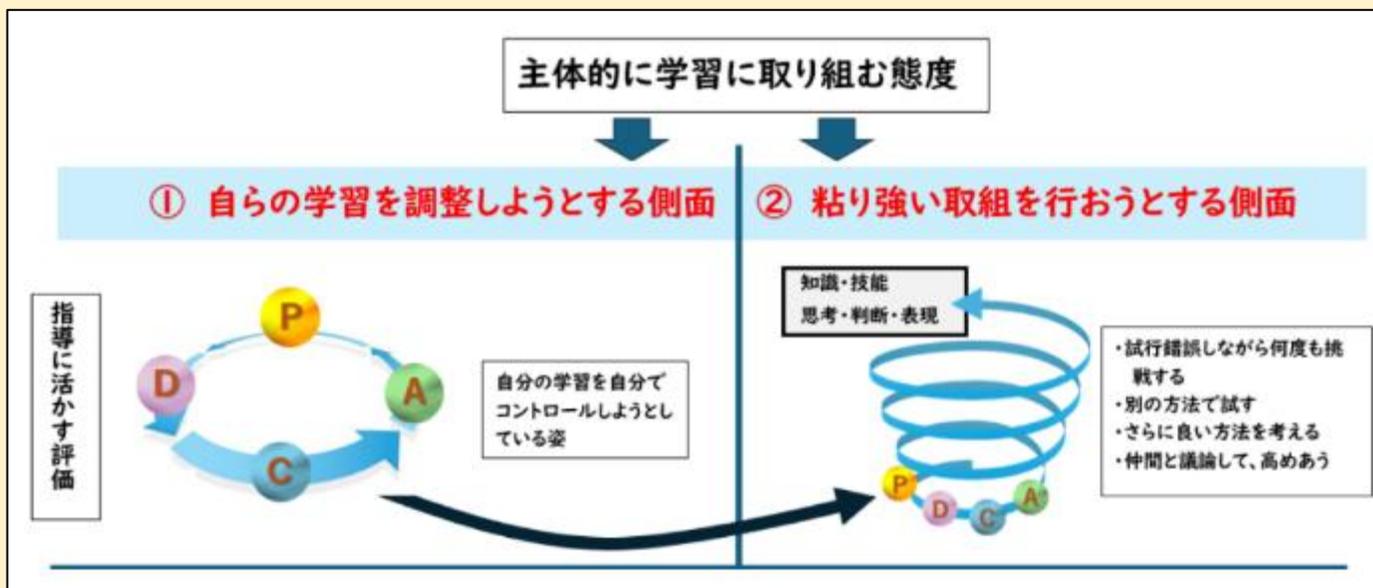
- ・同じカテゴリーに分類された児童の中でも、最適な指導・援助は異なるため、目の前の児童の実態を捉え、即時的に評価をして、指導・援助をする必要がある。
- ・「算数」で得た成果と課題を他教科にも生かしていく。（他教科における「主体的に学習に取り組む態度」と他の2観点との関係性に注意すること）

### ◆概要…訪問日7月10日

#### ・公開教科【数学】

#### 生徒自身がPDCAサイクルを回していくための単元構想

- ・生徒自身が単元を通してPDCAサイクルを回していくことが出来る単元構想をする。(下図参照)
- ・本時は前時に生徒が立てた計画をもとに自分とペースで学習を進める。
- ・Formsを活用し終末に評価問題に取り組みせ、生徒の学習状況を捉えて評価し、教師の指導につなげる。



### ○成果

- ・生徒自身が学習の計画を立て、1単位時間ごとにPDCAの大きなサイクルを回していくことで、自らの学びを自己調整しようとする姿を引き出すことができた。
- ・ICTのアンケート機能を活用して評価問題に取り組み、生徒の学習状況を「見える化」することで、教師は指導改善、生徒は学習改善につなげることができた。

### ●課題

- ・自らの学習を調整しようとする姿を引き出すために、他者参照などを取り入れ、1単位時間の授業の中で学習改善を行っていくこと。
- ・評価問題をもとにして全体指導に生かすなど、必要に応じて教師の出場を工夫すること。

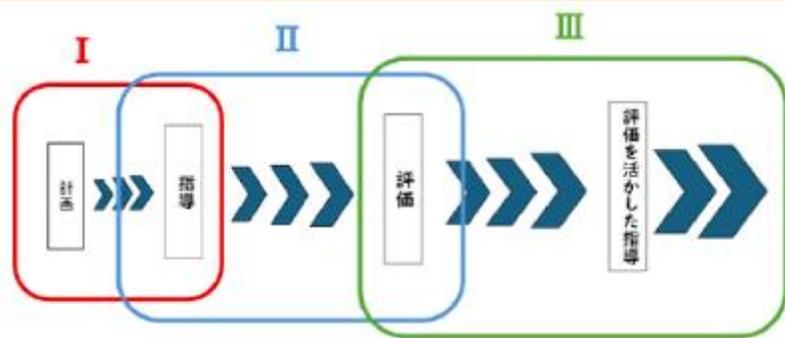
### ◆概要…訪問日10月29日

#### ・公開教科【音楽】

主体的に学習に取り組む態度の妥当性・信頼性のある評価の在り方

#### ○どの生徒もP「願い」をもち、学び進めるための単元指導の在り方

- ・単元導入の計画において、「こんな音楽を作りたい」と生徒に「願い」をもたせる指導を行った。
- ・教師も生徒がもった「願い」を把握し、どの生徒にどのような言葉がけをするかについてあらかじめ計画を立て指導・援助を行うことで指導改善を図った。
- ・検証会では、公開した音楽の授業を基に、美濃中学校で大切にしたい「指導と評価の一体化」について再確認を行い、共通理解を深めた。



主張点

- I: 「主体的に学習に取り組む態度」が発揮できる単元構成(節)の工夫
- II: 「主体的に学習に取り組む態度」が見える化し評価する工夫
- III: 評価を指導に活かす工夫

#### ○成果

- ・単元を通して生徒がもった「願い」を振り返り、その願いを意識して音楽づくりをする活動を行うことで、生徒自身がPDCAサイクルを回し、自らの学びを調整する姿につながった。
- ・教師も生徒一人ひとりの「願い」を把握し、指導・援助をしたり、「願い」を実現しようとしている姿を価値付けることで、よりよい音楽を作り出そうとする姿を引き出すことが出来た。

#### ●課題

- ・グループでの生徒の活動の様子を捉えて、必要に応じて教師が指導するための具体的な手立てを明確にすること。
- ・ICTを活用し、仲間の考えを参照し、自分の活動(考え)に生かすなど生徒自身がPDCAを回していくことための指導の在り方を明確にすること。

### ◆概要…訪問日7月2日（水）

#### ・公開教科【 外国語 】

「主体的に学習に取り組む態度」の妥当性・信頼性のある評価の在り方

- ・児童が My Goal（課題解決に向けどのように取り組むか）を設定して授業に臨む。
- ・授業途中で、内容の理解や学び方を振り返られるよう 教師が促すことで、児童が自己調整を図りながら課題の達成に向かえるようにする。
- ・授業終末に、ペアとの会話を動画撮影し、My Goalを達成できていたかどうか振り返る。



### ○成果

- ・前時の振り返りの紹介（My Goalの意識が技能の高まりにつながった例）をもとに、本時の設定をすることが、意識の継続につながっている。
- ・学習の見通しをもつ導入、教師の即時的な評価や価値付けが継続的に指導されてきたことが、粘り強く課題に向かう児童の姿に表れている。
- ・授業開始時だけでなく、授業の途中で自分が設定した“My Goal”を意識できるよう意図的な声掛けが効果的であった。

### ●課題

- ・動画撮影を使った終末の振り返りを、児童がより自身の学習改善につながるものにしていくこと。
- ・児童の態度目標を、より本時のねらう資質・能力に合ったものにしていくこと。

### ◆概要…訪問日11月18日(火)

・公開教科【国語・社会・算数・理科・音楽・体育・外国語・特別支援】

「主体的に学習に取り組む態度」の妥当性・信頼性の  
ある評価の在り方

学びに向かう力・人間性等の涵養

主体的に学習に取り組む態度

★ R7 評価の信頼性を高める手立て  
(個人目標の設定・活動の動画提出・振り返り…3点で評価)

★ R5 自らの考えや思いを表出できるようにする手立て

R5

粘り強さ

- ・課題の把握と見通し
- ・即時価値付け・フィードバック

R6

自己調整

- ・自己課題の設定と振り返り

### ○成果

・「自らの考えや思いを表出する」手だて（示された活動から選択する）を講ずることで、令和5・6年度の成果を、児童の主体的に学習に取り組む態度につなげることができた。

・個人目標の設定・活動の動画提出・振り返りの3点を用いて「どんな目標をもって活動し、振り返っているか。そのことが行動として見えるか。」といった確かな事実をもとに評価を行うことができ、その信頼性を高めた。

### ●課題

・学年間の発達段階を踏まえた段階的・長期的な「自己調整力」の育成。

### ◆概要…訪問日7月4日

#### ・公開教科【理科】「酸・アルカリとイオン」

◎自己調整力や自己評価力の育成につながる学習評価の在り方

○評価活動の工夫による適切な学習評価の在り方

- ・単元課題を設定し、その解決に向けた生徒の変容を『探究マップ』を活用して、見届け評価する。
- ・本時前半では、単元課題について既習事項を生かしながら、解決方法を自己選択して解決し、後半は単元の初めに各自がもった疑問を解決した。
- ・終末では、『探究マップ』に自身の変容を振り返る場を位置付けた。

### ○成果

- ・導入で単元を通して解決したいと思える事象提示の仕方を工夫したことで、生徒が1時間ごとに探究意欲と明確な見通しをもって取り組むことができた。
- ・『探究マップ』を活用し、毎時間、振り返りを行い、その変容を見届け評価したことで、生徒は自己の変容を実感し、さらに次の時間の主体的な学びへとつながった。

### ●課題

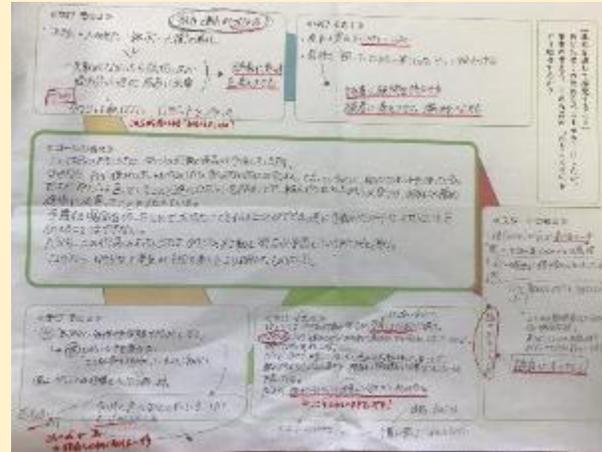
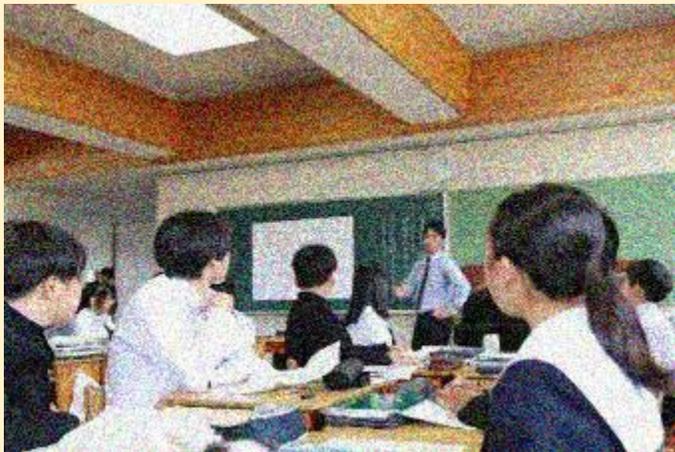
- ・単元（題材）を貫く課題についての他教科における有効性について
- ・理科で提示された『探究マップ』のような単元（題材）を通じた振り返りシートの他教科における有効性について



### ◆概要…訪問日10月22日

- ・公開教科【国語】 人間のきずな「ヒューマノイド」
- ◎自己調整力や自己評価力の育成につながる学習評価の在り方
- 評価活動の工夫による適切な学習評価の在り方

- ・単元課題「この作品で作者が表現しようとしているおもしろさは何か」を設定し、単元を通して追究する事柄を明確にする。
- ・グループでの交流を通して、自分の考えを評価・調整する場面を位置付けた。
- ・『探究マップ』を用いて、自身の変容を振り返る場を位置付けた。



### ○成果

- ・単元課題を設定したことで、単元を通して追究をする事柄が明確になり、生徒の主体的な姿につながった。
- ・探究マップを活用することで、生徒が単元の最初にもっていた考えと今の考えとを比較して考え、学びの変容を自覚できる姿につながった。
- ・訪問1と共通する事項「単元を貫く課題」の有効性が見えた。

### ●課題

- ・単位時間の中で、生徒の姿や書き残したもののから評価をきちんと見取りきることの難しさ。
- ・単元課題になっている「おもしろさ」ということに焦点化したことにより、学びの広がりという視点から見ると弱かったように感じる。

# 県内各学校への展開例

※R5・6指定：西可児中学校  
【可茂教育事務所】

## ○教育課程研究協議会（小7月23日・中7月24日）

### 管内学校教諭による授業動画視聴

本時のねらいに迫る指導場面の授業動画を視聴し、指導のよさや在り方について意見交流



### グループ別協議会

「指導と評価の一体化」に関わる実践交流  
→適切な『評価時期』『評価場面』『評価方法』の検討

## ○学力向上・指導改善推進会議

### 第1回 オンデマンド視聴 4月14日～5月30日

西可児中学校の実践を紹介したプレゼン動画を視聴し、『指導と評価の一体化』による学習評価の充実を土台にした具体的な指導改善の方途を明確化する

### 第2回 Web会議による開催 10月10日

学力向上の取組（前期）について成果と課題を明らかにするとともに、自校内で検証していくべき点や、指導改善を図っていくべき点を共有し、年度末に向けた指導改善サイクルの営みをさらに充実させる

## ○その他教育事務所としての取組

### 各学校訪問時の共通認識に立った教科指導（事前指導）

西可児中学校が大切にしてきた3つの視点

- ①指導と評価の計画 【単元指導計画・単位時間の指導】
- ②教師にとっての「見える化」 【教師による指導改善】
- ③生徒にとっての「見える化」 【生徒による学習改善】

➡「指導と評価の一体化」に関わる  
共通した指導・助言



### 実践紹介の機会の設定

『可茂の教育』への掲載  
R5年度～R6年度の取組概要を  
各学校・地域へ展開



### 初任者研修での授業公開

事務所研修（授業研修）にて各教科の授業公開と初任者との教科別研究会を実施

西可児中学校の先生方が自らの実践を初任者や参観者に伝えていく機会を設定

# より詳細な実践事例はこちら

各リーディング・スクールの実践の詳細は下の二次元コードまたはリンクからアクセスすることで御覧いただけます。



小学校	中学校
<p><a href="#">【岐阜地区】 岐阜市立加納小学校</a></p> 	<p><a href="#">【岐阜地区】 岐阜市立加納中学校</a></p> 
<p><a href="#">【西濃地区】 関ヶ原町立関ヶ原小学校</a></p> 	<p><a href="#">【美濃地区】 美濃市立美濃中学校</a></p> 
<p><a href="#">【東濃地区】 中津川市立南小学校</a></p> 	<p><a href="#">【飛騨地区】 高山市立日枝中学校</a></p> 